

豊かな道徳性を育み、よりよく生きようとする子の育成

～問題解決的な学習を中心とした道徳科授業を通して～

碧南市立中央小学校

石原 博文

碧南市では、教員の力量向上を目的とし、市内12の小中学校が協力して研究に取り組み、その成果を共有できるようにしています。特に、授業力をつけるために、3年計画での研究発表を順に担当しています。

本校は、新教科である道徳科の授業に焦点を当て、昨年7月に研究発表を行いました。従来型の心情理解に偏ったものから脱却し、質的変換を目指しました。

理論部分は、岐阜大学大学院準教授の柳沼良太先生にお願いしました。問題解決的な道徳科の授業に挑戦し、授業実践を重ねてきました。元三教研道徳部会長の近藤正義先生にも指導を仰ぎながら、授業に自信をもつて臨めるようになりました。

基本的な指導過程は次の通りです。
導入では、内容項目にかかわる学習前の実態の表出をねらいとして、子どもの具体的な経験や事例を問います。

展開前段では、資料を用いて、個々をもつ道徳的価値観の表出をねらいます。資料の中で①何が問題か②なぜ問題か③何を解決するべきかを全体で共通理解します。その後、個人で解決策をじっくり考えます。

展開後段では、子どもが新たな価値観

を獲得することをね

らいます。前段で考

えた解決策を学級全

体で話し合います。

役割演技を行ったり、

同じような場面で同

様の解決策が有効で

あるか確かめたりし

ます。ときにはスキルトレーニングの時

間とすることもあります。

終末では、自己の変容の自覚をさせ、実践意欲の向上をねらいます。振り返りをする時間を確保し、感想交流を行います。板書の形式についても工夫してきました。

1時間の授業の流れを特定の場所に書くことで、子ども自身が変容を自覚しやすいようになったと思います。

最後に1年生のあるクラスの合言葉を紹介します。

どうとくは、二ころとあたまでかんがえて、おくちではっぴよう。

しんけんながえにまちがいはないよ。

授業を楽しんでいる姿が、この合言葉からも目に浮かんできます。

この研究で得られた成果や課題を各校で共有しながら、さらに研究実践を積み重ねていきたいと考えています。

